

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	吉原 悦子	職名	講師	学位	修士 (看護学) 大分大学 2007 年
----	-------	----	----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
老年看護学	排泄ケア 認知症ケア 地域貢献活動

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症高齢者の排便ケア</li> <li>・ 地域貢献活動に参加した学生の学び</li> </ul>

担 当 授 業 科 目
(前期) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成人・老年看護過程演習</li> <li>・ 地域連携協働支援論</li> <li>・ 在宅看護学</li> <li>・ 在宅看護学演習</li> <li>・ 看護総合演習</li> <li>・ 看護総合実習</li> </ul> (後期) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年看護方法論</li> <li>・ 老年看護学実習Ⅱ</li> <li>・ 看護学 (栄養学科)</li> </ul>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<b>授業科目名【成人・老年看護過程演習】</b> 病像シートでは、解説があったこともあり、項目に沿って整理しようとした様子が伺えたが、分析に活用ができるように指導を行った。慢性期、急性期、老年期とそれぞれの特徴が分析できるように具体例を挙げ、かかわった。グループワーク自体は比較的活発に行うが、提出期限が迫ってくると記録の体裁を整えようとする傾向が強く、グループ内で分担をし、提出をしようとするグループが多かったため、返却の際に、指導を行った。また、グループワークの効果を意図し、1 グループの人数を少数とした。学習の習熟度には個人差が大きく、実習においても繰り返し指導していく必要がある。
<b>授業科目名【地域連携協働支援論】</b> 今年度より開講の科目である。「地域で生活する人々」をキーワードとし、自らの生活に着眼するところから始めた。①自分自身のことと捉えられるように日常生活をイメージするような課題を提供し、講義を行った。②講義に集中できるように学生個人での作業とグループワークを取り入れ、発表する機会を設けた。③学生の自由な発想を妨げないように行った。④講義の中で地域・看護・認知症・高齢者・障害者などのキーワードでのトピックスなどを交えて提供し、幅広い視野を持てるように内容を工夫した。
<b>授業科目名【在宅看護学】</b> 地域包括ケアの部分を担当した。地域包括ケアは背景がさまざまであり、なぜ地域包括ケアが必要になったのかを制度を含めて解説した。これまで、概論や方法論で学んできたことを想起させながら、講義を行った。また、病院、在宅など切れ目のない看護を提供することをイメージ付けるためにも具体例を挙げながら、病院から在宅、在宅から病院での継続の方法や関連職種などを含めた連携を伝えた。特に学生は、これまで学んだ内容等を想起しながら講義を聞くことが難しく、「習ったか」「この用語は聞いたことがあるのか」など、確認をしながら、講義を進めていった。国家試験にも出題する分野であるため、繰り返し伝えていった。

<p><b>授業科目名【在宅看護学演習】</b></p> <p>地域包括ケアの部分を担当した。在宅看護学を踏まえながら、事例に基づいてサービスを図式化していった。その中でもサービスを丁寧に洗い出し図にまとめたグループについては講義の中で発表を行ってもらい、補足した。また、資料として配布し、ほかの学生の参考になるようにした。単にサービスを羅列するのではなく、その人の人生という長いスパンの中で必要なサービスも変化していくことの意識付けを行った。この資料に関しては、老年看護学実習においても参考にしていただいていた学生がいたので、学んだことが実践の場において生かされたと考える。しかし、制度は日々変わっていくため、常に情報収集をすることも今後は意識づけをしていく。看護過程に関しては、目先の疾患、症状、家族の介護負担にとらわれがちになり、在宅看護として何を大事に考えていく必要があるのかななどをこれまでの看護過程や学んできたことをベースに考えていくような指導を行った。そのためにも、教員間においても内容に関して十分に検討を行った。</p>
<p><b>授業科目名【看護総合演習・実習】</b></p> <p>看護総合演習については、関心のある分野の論文を読み、ゼミのメンバーと意見交換を行った。実習につながる演習であるためどのようなことに関心を持っているのか、などを具体的に聞きながら、主体的に学ぶ方向に助言を行った。各論実習と重なり、全員でディスカッションができる時間はあまりなかったが、進度の早い学生から他の学生へと助言をするように勧めた。</p> <p>看護総合実習については、学生自ら取り組む実習として演習に引き続き実習内容を確認し、臨床側と調整を行った。また、実習終了後は個別にレポート指導を行った。</p> <p>総合演習・実習の報告会を実習施設で行い、直接、指導者（多職種）からのコメントもいただいたことで、学生たちの行ったケアやまとめたレポートの有意義な振り返りとなった。</p>
<p><b>授業科目名【老年看護学方法論】</b></p> <p>高齢者に起こりやすい症状とケアについては、基本的な疾患や症状はすでに学んでいるため、高齢者では特に気を付けるべきことについて具体的な実習場面を盛り込み、講義を行った。特に認知力の低下した高齢者については一般的なかかわりの原則は理解しているが、実習終了した学生に具体的に実習場面や困難に感じたことどのようなケアを行ったのかを話してもらうことで、具体的な場面をイメージしながら講義を聞くことができた。高齢者を理解するために必要な知識を習得するのみではなく、実践に生かすことを目指しながら講義を行った。</p>
<p><b>授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】</b></p> <p>施設実習で1週間と短いため、その中でいかに療養者の全体像を捉えられるのかを意識して指導した。特に学生と療養者とのかかわりの場面を逃さずに確認し、その関わりから何を考えたのかを確認するように心がけた。認知力が低下している高齢者とのかかわりになるため、言語だけを聞くのではなく、その人の持つ背景を鑑み、受け持ち療養者さんのメッセージをくみ取るように指導した。また、今年度から受け持ち療養者のライフストーリーを聞き取る課題に加え、レクリエーションの企画、実践を課題とした。担当療養者のみではなく、フロアに入所する高齢者全体へと目を配ることや、レクリエーションの内容について積極的に看護以外のスタッフに相談をする学生が多くみられ、様々な職種との関わりを行うこととなった。</p>
<p><b>授業科目名【看護学（栄養学科）】</b></p> <p>栄養学科の学生でもなじみのある、また、今後必要となる疾患を取り上げた。3、4年生であるため、ある程度の知識はあると考えたが、その都度、用語の確認などを行い、講義を進めていった。事例をもとにアセスメントについて個人作業を行った際には、学生個人のわからないところを確認していった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		2001年4月～現在に至る
日本老年看護学会		2003年4月～現在に至る
日本老年社会科学会		2003年4月～現在に至る
日本認知症ケア学会		2006年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2008年6月～現在に至る
公益社団法人「認知症の人と家族の会」		2016年5月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 地域在住の女性高齢者における尿失禁についての実態調査	共著	2019年11月	第39回日本看護科学学会学術集会 (於：石川)	地域在住の女性高齢者の抱える尿失禁の実態や尿失禁による生活への影響を把握した。尿もれありは、約半数であった。しかし、年齢区分と尿失禁の有無や生活への影響では有意差はなかった。また、尿パッドをつけている割合は7割という結果であった。 共同発表者名：吉原悦子、丸山泰子、金子由里、溝部昌子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	2019年度西南女学院大学共同研究費	○吉原悦子 (谷川弘治) 今村浩司 樋口真己 (石丸美奈子)	1,325,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- 学生募集委員 2019年4月～2020年3月
- 学生募集関連：模擬授業（若松高校、東鷹高校、東九州龍谷高校）  
学科説明・校内案内（戸畑高校、新宮高校）  
ゆめみらいワーク  
高校訪問（中津北高校、中津南高校、東九州龍谷高校）
- キャンパスハラスメント相談員 2019年4月～2020年3月
- 北九州市民カレッジ 講師
- 地域貢献活動：学生と共に「尿漏れを予防しよう」を行った。（於：井堀市民センター 2019年9月）